

令和5年度 学校評価報告書

学校教育の 努力点（主題）	主体的に遊びこむ幼児の育成 － “不思議だな” “どうしてだろう” を支える指導－	Ⅱ
------------------	--	---

1 実践のねらい

幼児は身近な環境に“おもしろそう”“やってみよう”と心を動かして遊び、その積み重ねの中で、“不思議だな”“どうしてだろう”と思いを巡らしていき。そして、“こうしてみよう”“こうしたらどうかな”と思いの実現に向け、自分なりに考えたり試行錯誤したりして、より主体的に環境と関わりながら遊びこむようになると考える。昨年度の取り組みでは、教師が幼児の姿からタイミングを捉えた環境の構成や教師の援助を工夫したり、自分なりの考えや遊び方を広げていけるよう支えたりしていくことが大切だと分かった。そこで今年度は、幼児が“不思議だな”“どうしてだろう”と感じたり、遊びを進めていく過程で思いやイメージを実現しようと考え試行錯誤したりする姿を支えるための環境の構成や教師のあり方を明らかにしていくことで、夢中になって繰り返したり、環境を生かして自分の遊びに取り入れたりするなど遊びを意欲的に展開し、主体的に生活していく幼児を育てたいと考えた。

2 実践のねらいに迫るための手立て

- ① 学年ごとに育ってほしい具体的な幼児の姿を考える。また、そのために必要な環境の構成や教師の援助について時期ごとに考え、実践する。
- ② 事例検討会や研究保育を通して、幼児が遊びこむために、有用な環境の構成を含む指導のあり方について理解を深め、次の実践に生かす。
- ③ 菊井中ブロックの幼小中交流研修会に参加し、互いの取り組みを知る。
- ④ ドキュメンテーションやHP、保護者会等で、遊びの様子や育ちを保護者に伝え、幼児教育への理解が深まるようにする。

3 実践の内容

- ・ 事例検討会や研究保育を通して、一人一人の幼児の表情やつぶやきを捉え、教師も共感したり一緒になって考えたりすることで、さらに“どうしてだろう”“どうしたらいいかな”と幼児自身の興味が膨らみ、遊びに没頭していきことが分かった。
- ・ 夏季と冬季休業中に菊井中ブロックの3校園の教員が集まり、幼小中交流研修会を行った。幼・小・中の努力点の取り組みを紹介したり、「ナゴヤ学びのコンパス」を意識した菊井中ブロックでのめざす子どもの姿を考えたりして、連携を進めている。話し合いを通して、幼児期には自分の興味あることに没頭して遊ぶことができる環境を整え、幼児が主体となって遊び(活動)を進めるための援助をしていくことの大切さを改めて感じた。

4 成果と課題

自己評価結果では、どの項目でも昨年度と同様で高く、保護者アンケートも同様に高かった。アプリでの各学級や全学年へのドキュメンテーションの配信内容で、幼児の遊びの中にある学びを丁寧にかつ継続的に配信したことで、幼稚園と家庭とのつながりも深まった。また、小学校との交流や近隣への買い物等も行う中で、地域とのつながりができ、学校関係者評価では、「幼児が主体的に遊びや行事に関わり自ら考えて行動できるような環境の構成や教師の援助の工夫がすばらしい。自信をもっていいと思う」「幼小中で連携していくことで保護者も安心できるのでいいと思う」とご意見をいただいた。

5 来年度に向けて

幼小中交流研修会では、幼児期の学びを具体的に話し理解を得るには至っていない。今後も主体的な遊びの中にある多くの学びの芽を教師自身が改めて理解し直し、伝えられるように努めるとともに、幼児の心が動く魅力的な環境を準備しつつ、幼児なりに選んだり使いこなしたりしていけるような援助を心掛けたい。